

平成 27 年 12 月期月次景況調査結果

この調査結果は、中小企業庁の指定事業に基づいて設置された山口県内の情報連絡員 60 人に、本会が新たに選んだ 20 人を加えた 80 人の連絡員より業界動向を把握した結果です。

1 2 月の業種別景況の DI 値は、13 業種の内 3 業種が好転し、2 業種が悪化した、全体では横ばいの結果となった。

暖冬で商店街や食料品では来客数が増加し、売上が微増したところもあるが、高額な冬物衣類等は販売不振があり売り上げには結びつかないところもある。

依然として、輸送機器、サービス業、運輸業での人手不足が慢性化している。

一般機器では、海外発注が日本に戻りつつあるが、原油安や低価格競争があり先行きが不透明なところである。

山口県の主要指標 DI 値（平成 27 年 12 月末現在）

※DI 値とは、前年同期に比べ「増加」・「好転」したとする企業割合から「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値です。

業界の景況（〈好転〉－〈悪化〉＝〈DI 値〉）

前年同月比は、好転： 5.0% 悪化：26.3% DI 値：▲21.3% ポイント

売上高（〈増加〉－〈減少〉＝〈DI 値〉）








前年同月比は、増加： 17.5% 減少：33.8% DI 値：▲16.3% ポイント



収益状況（〈好転〉－〈悪化〉＝〈DI 値〉）


前年同月比は、好転： 8.8% 悪化：23.8% DI 値：▲15.0% ポイント

山口県の業種別 DI 値(業界の景況)（平成 27 年 12 月末現在）

				
30 以上	30 未満～ 10 以上	10 未満～ ▲10 以上	▲10 未満～ ▲30 以上	▲30 未満

食料品	織 維 工 業	木材・ 木製品	印 刷	窯業・ 土石製品	一 般 機 器	輸 送 機 器	全 製 造 業
▲28.6	▲25.0	▲33.3	▲50.0	▲16.6	▲22.2	50.0	▲21.2
							

卸売業	小売業	商店街	サービ ス 業	建設業	運輸業	全 非 製造業
▲20.0	▲22.2	▲50.0	0.0	▲30.0	▲28.6	▲21.2
						

全 体
▲21.3


特記事項（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）

食料品	暖冬により来店客は増加。菰地域が好調だった今年、来年以降が不安。軽減税率に菓子適用され喜んでる組合員が多い。	パン・菓子製造業
	11月は対前年同月比で+7.5%。12月は12/28時点で+8%以上売上高がアップしている。TV・雑誌メディアを中心とした広報PRも依然として高水準となっている。冷蔵庫・冷凍庫・ショーケース等の温度管理機器群が実質耐用年数の15年となるのに伴い、次年度より順次設備更新をする計画で、合計1億円の大きな設備投資となる見込み。	水産食料品製造業 菰市
	年末の売り上げが思ったように伸びなかった。小売業やお土産の伸びが少ない。県内産の「うに」が採れない。	水産食料品製造業 下関市
	長雨で麦の播種が大幅に遅れたため、今年の麦の収穫や田植作業に影響が出ないかどうか懸念されるところ。米価が上昇傾向にあるということとその点はあるが、お米の需要が減少傾向にあるとのことなので、在庫の拡大が懸念されるところ。TPPについて今国会で承認されるところであるが、農村現場は更に厳しい状況になると予想されるので、適切な対策が必要となっている。	精穀・製粉業
繊維工業	主力販売取引先の受注増（新製品作り込みの追加生産）により来年2月末まで受注あり。既に操業日数を増やし残業をして増産体制をとっているが、更に1～3月の操業日数は増加する見込み。追加生産分の新製品の発売が開始されたが、販売状況が予算よりかなり悪く推移しており、在庫過多による生産調整が懸念される。実習生の受け入れについて中国人の募集が困難になり、今後はベトナム人実習生が主となる。	下着類製造業
	市場の二極化が進行している。暖冬で衣類の販売は苦戦中。	外衣・シャツ製造業 山口市
	暖冬の影響で春物の受注が少ない。	外衣・シャツ製造業 下関市
木材・木製品	新設住宅着工戸数は、昨年同期を下回っている。木材価格に変動はない。	製材業・木製品製造業 山口市
	売上高は微減。	製材業・木製品製造業 下関市
印刷	ネット印刷等に仕事量が流れており、昨年に比べ業況が非常に厳しくなっている。価格では太刀打ちできないので、付加価値を付けて差別化を図る事	印刷 下関市

	が急がれる。	
	業界は相変わらず不況続き。	印刷 山口市
窯業・土石製品	骨材、路盤材に関しては、前年とほぼ同じぐらいの出荷量。 (平成26年12月) 骨材 79%、路盤材119%、再生材209% ↓ (平成27年12月) 骨材 85%、路盤材106%、再生材 47%	砕石製造業
	出荷量は、前月比90%、前年同月比100%。現時点では、セメント・骨材等の資材調達は、特に問題は生じていない。下関地区で値上げが認められた。	生コンクリート製造業
	新規建物の駆込み受注があるかと思いきやその兆候は無く、テレビで取り上げられている「墓じまい」の仕事が多くなってきている。撤去するにしても処分費用が掛かるため見積金額が大きくなるが、お客さんは金額しか考えないため他店との見積の比較をされたり、値引きの交渉を受ける事が多い。昔からうるう年は仕事が減るというジンクスがあり、石屋泣かせの年となる。	石工品製造業
一般機器	雇用調整を実施している組合員がある。	一般機械器具製造業 周南市
	12月の景況は、前月に引き続き概ね不変という状況。自動車関連は、メーカーの発注が回復して概ね良好。鋼構造物も受注が安定している。容器製造は、ベトナム・マレーシアへの発注が日本へ移行しつつあり持ち直してきている。マイナンバーの取組みはまだ活発に動いていない。	一般機械器具製造業 防府市
	機械検査関係企業の受注状況に陰りがみられ残業が減っている。その他の業種は好調で残業も多い。機械加工、食品加工、スーパー、農業、食肉加工業、溶接関係、惣菜、自動車整備業、介護サービス業から人手不足のため、外国人技能実習生受入事業の増員や新規の相談があった。特に、介護施設からの問い合わせが増えている。	一般機械器具製造業 宇部市

	<p>金型の設備操業度は11月よりもかなり低下。10～11月受注の低迷が要因で、昨今の環境では低価格、短納期に対応しないと仕事が取れない状況。短納期には何とか対応出来るが、価格競争で他社と同額まで下げてまでは受注が出来ないのが現状。価格を下げれば受注可能だが、一旦下げると次からは価格が上げられないため、製造原価をどう下げて利益を出すかが常に課題となっている。他社金型との差別化を図るため、射出成形機とのシステム受注及び、インサート成形金型製作、射出成形機にマッチした金型を提供する事などの強みを活かし、特徴の有る金型づくりの提案をすれば仕事は入って来ると思う。加工設備の老朽化に伴い新規設備の入れ替え、メンテ、修繕等、人材の教育、育成と色々と来期も課題が有るが、計画を立てて少しずつでも達成しなければならない。鋼材メーカーからの情報では、広島・九州方面のプラスチック金型の動きが鈍いとのことで、厳しい環境、状況が続くと思われる。成形製品の設備稼働率は上昇傾向だが、受注が伸び悩み先が読めない状況が続いている。</p>	特殊産業用機械製造業
輸送機器	<p>精密加工部門の生産が前年度に迫るまでに持ち直してきている。輸送部門は今後も作業量に恵まれる模様だが価格の低下は続く見込みで、厳しい経営が続く。</p>	鉄道車両・同部品製造業
	<p>人員不足・人材不足が続いている。</p>	船舶製造・修理業
卸売業	<p>海水温が例年の13.2℃より高く、11月上旬からの赤腐病の影響で新海苔の量が少なく単価が上がっており、品質もばらつきが大きく海苔が入札出来ないでいる。(赤腐病は水カビの一種で海苔に感染すると見た目が赤っぽく穴が開いて海中でちぎれてしまう。)</p>	乾物卸売業
	<p>この3年程養殖“ふく”の価格が安すぎたため、今年の高値という印象が強く、消費離れを招いている。鮮魚は12月に入り入荷が多くなっているが魚種が少ない。</p>	生鮮・魚介卸売業
	<p>天候不順により年末商品の動きが鈍かった。前年と同様に燃料価格が下がり配送コストの軽減に期待できる。</p>	各種商品卸売業
小売業	<p>路面店の売上高は前年並みだが、インショップなどではイベントに合わせてセールを実施したところが多く、売上高が微増となった模様。新商品の発売がない12月では、個店の頑張りの結果と思う。</p>	化粧品小売業

	<p>経営者の高齢化・後継者不足など事業継続に意欲的な経営者が少なく組合解散を検討して行く事となった。地域で商売するのが厳しい状況に落ち込んでいる。地区内の中小企業者の動向は、製造業の売上は微増もしくは横ばい状態で他の業種と比べて業況は良い。基本的に税抜き価格で価格交渉するため消費税転嫁も問題ない。建設業は、先行きが不透明であるので現状を維持して行きたいと考えている。人材確保を最優先し会社組織の強化を図りたい。</p>	<p>各種商品小売業 岩国市</p>
	<p>第31回周南冬のツリーまつりは、会場が分散されて開催されたが、各会場とも多くの人出があった。歳末大売出しは前年に比べて低調であった。</p>	<p>各種商品小売業 周南市</p>
	<p>相変わらずの消費の低迷の中、郊外大型店の増床・無料駐車場の増加の影響で、中心商店街は人出そのものが減少していると思われる。バリエーション・利便性でどうしても劣るのはやむを得ない。</p>	<p>各種商品小売業 山口市</p>
	<p>7月に新規出店した酒のディスカウント店の出店により売上・客数とも前年を上回っているが、既存店では11月から前年を下回る厳しい状況。</p>	<p>各種商品小売業 長門市</p>
商店街	<p>暖冬で来街者数は確保できたが、コート・ジャンパー類、高額単価商品の売上げ不振が続き、明るい材料がないまま新年を迎える。売上については良い店も悪い店もあり、店舗により格差がある。商店街連合会の「冬の山口デー抽選券」の回収は昨年とほぼ同等数であった。</p>	<p>山口市</p>
	<p>久しぶりに各店とも多少売上が増加。特に正月用の衣料店の売上が多く、玩具店、食料品店も増加した。そのために、1月は売上が減少するのではないかと気になる模様である。</p>	<p>萩市</p>
サービス業	<p>11月の低迷に比べると12月は徐々にではあるが賑わいが出てきたように思う。しかし、中旬は静かな時もあったが、ようやく年末が近づいて忙しくなったような感じで波がある。</p>	<p>美容業</p>
	<p>年末も思ったほどの営業状況でなかった。</p>	<p>理容業</p>
	<p>業界紙が平成28年上半期の車検台数が過去5年間で最低の前年度よりも18%減少する見通しと報じている。車検が売上に占める比率の高い整備事業者には大きな試練となりそう。</p>	<p>自動車整備業 山口市</p>
	<p>暖冬で好天に恵まれ事故率が低いことは良い事である反面、整備業の収益は減少している。</p>	<p>自動車整備業 山口市</p>
	<p>人出不足が継続している。</p>	<p>スポーツ・健康教授業</p>

	全国中学校駅伝、医療学会が山口市で開催されたことで、宿泊人員・売上とも前年比2ケタ増となった。	旅館業 山口市
	忘年会シーズンに入り、単価に変わりはないが利用客数が増え、収益としては好転している。	旅館業 下関市
	飲食部門の一部改修工事のために施設利用者が減少し売上高の減少が続いており、建設資金に係る資金調達に苦慮している。損益は光熱費等の管理経費が大幅な減額となったため、影響は少なかった。	旅館業 長門市
	忘年会の予約は増加したが参加人数が少なく結果は売上減少だったと岩国、周南、防府、宇部、下関と県下一円からの報告があった。株高の恩恵は一部株主のみで、大企業でも給与アップにつながったのは少数だった模様で、デフレ脱却はしたようだが景気回復には至っていない様子が伺える。高価格なおせち料理の注文はあっても少数で、ほとんどの消費者が寿司の盛合せ程度に抑えている模様。少子化の影響かファミリー、グループとも参加人数が確実に減っており、収益の悪化は止まっていない。朗報は年末にかけてガソリンが値下りし、収益の悪化に歯止めがかかるかもとの報告もあった。暖冬の年明けで懐も温かくなることを期待したい。	飲食業
	原油価格の下落のおかげでクリーニング一点当たりの利益が増えているが、業界全体としての需要の低下が著しく、なかなか明るい話は聞こえてこない。	普通洗濯業
建設業	山口支部の中電への工事申請は11月203件（前年同月316件）。太陽光発電への申請36件、オール電化申請42件（前年は太陽光39件、オール電化61件）、LED街路灯への切替・新設申請は43件（前年は33件）であった。	電気工事業
	春先から工事発注量が少ない状態が続いている。2年余前からの受注単価の上昇が維持されており、同時に今迄の低コスト体制も維持されており、決算は高い水準で保たれている事業所が多い。	左官業
	公共事業の減少で組合の脱退者が出ており組合の存続にかかわるが、新規加入の勧誘をしても返事が重たい状況。何な良策はないものだろうか。	土木工事業 柳井市
	27年12月の受注高は、対前年同月比145%。今年度の累計では対前年比42%。	土木工事業 萩市
	今現在は燃料価格が下がって助かっているが、次期工事単価に今現在の低い燃料価格が採用されないことを願っている。今年度は4～6月の発注が無かったが、7～10月の発注により2月末の納期まで忙しくしている。12月の発注は全く無かった。	管工事業

運輸業	<p>年末にかけての長距離ドライバー不足は深刻であった。鉄鋼素材の中近距離輸送の売上高はやや上昇、輸出は横ばいであった。中小輸送業者にとって、ドライバー不足と運賃の据え置き等で、苦しい状況が続いている。燃料費は3.6円の値上げ。一時的なものと思われるが、燃料価格の変動は中小輸送業者にとって大きな痛手である。</p>	一般貨物自動車運送業 下松市
	<p>前年に比べ受注量が5%程度の減少となり、自動車及びタイヤ関連ともにマイナスとなった。中国他の経済減速、海外への生産拠点移転は今後も続きそうでもあり、見通しは決して良くない状態。燃料費は低レベルに落ち着いている。</p>	一般貨物自動車運送業 防府市
	<p>年末に近づき機械や原料などの工業製品の荷動きが少なくなり、逆に食品関係の輸送はクリスマスや年末年始商戦の荷動きが激しい状態が続いた。ドライバーの人員不足が相変わらず続いており、稼働していないトラックが見受けられ、運転手を補充しトラックの稼働を上げて売上を伸ばすことが喫緊の課題である。</p>	一般貨物自動車運送業 宇部市
	<p>組合の燃料価格は10当たり89円であるが、早くこれよりも低くなって欲しい。業界全体が厳しい状況にある中、人手不足も状況を悪化させている。</p>	一般貨物自動車運送業 下関市
	<p>タクシーチケットの取扱い金額は、前年比▲9.1%（平成27年11月1日～12月20日分）。11月1日～30日分は▲8.6%、12月1日～20日分は▲9.6%と大幅な減少が続いている。タクシー事業が不況業種である事も要因だが、基本的に地域経済が減速状態である事を表していると思う。当組合の取扱いは、光市，下松市，周南市，防府市の地域。11月分については、防府市地区が▲21%、周南▲4%、下松▲12%、光▲17%、他地区（員外）+3%となり、組合員の全域で▲9%となった。主要燃料のLPGには、CP（通告価格）と為替に連動して変動するが、為替が少し円安になり、ブタン、プロパンのCPが上昇（前月400\$/トンが今月455\$/トン）購入単価は先月に続いて6%高くなりました。前年度が高騰していたこともあり、前年12月分に比べれば13%の安価になる。車両代や整備費用が上昇しているので、燃料費が下がるのは大いに助かっているが、12月の繁忙期の上昇には困惑しており、原油が値崩れする中、今後の推移が気になる。7月中旬から売上高の減少が続いており、平成24年6月のような大幅減少の再来になりつつある。売上の減少に比例して乗務員の収入も減少しており、乗務員確保がたいへん難しい状況が続き、稼働台数</p>	一般旅客自動車運送業

	<p>も減少している。中国経済の低迷など、大手輸出産業に陰りが見え始め、国内の個人消費は改善されな いまま再びデフレスパイラルの状況に陥っている。 年金の実質減額や消費税増税など、低所得者の負担 が多くなる事ばかりで、個人消費はますます減少す ると思う。地方の経済は、ますます厳しい状況にな るように思われる。</p>	
	<p>1 1月に取扱トン数が若干上がった実績も元の水準 (低位)に戻ってしまった。</p>	<p>港湾運送業</p>